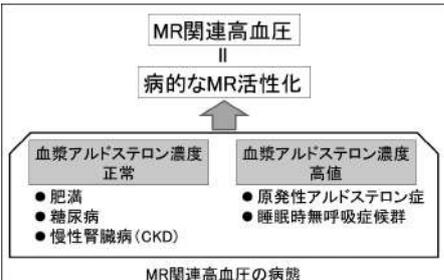


所属・職位	医学部医学科内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座・教授	
氏名	柴田 洋孝 (Shibata Hirofumi)	
取得学位	博士 (医学)、慶應義塾大学、1993年1月	
SDGs目標	  	

研究分野	内分泌代謝学
研究キーワード	高血圧、副腎、アルドステロン、糖尿病、慢性腎臓病

研究内容	<p><b>1. 原発性アルドステロン症患者のQOLを重視した最適治療法の検討</b></p> <p>副腎疾患、内分泌性高血圧の専門家として国内外の原発性アルドステロン症や高血圧の診療ガイドラインを副委員長として策定した。</p> <p>さらに、大分大学BURST認定の研究チーム「OPAT (大分大学原発性アルドステロン症研究チーム)」の責任者として、本疾患の最適治療と臨床評価をテーマに活動している。</p>  <p><b>2. 肥満、糖尿病、慢性腎臓病に合併する高血圧および臓器障害の分子機構の解明：新規病態「MR関連高血圧」の提唱</b></p> <p>血中アルドステロン濃度が高値を示す原発性アルドステロン症のみならず、血中アルドステロン濃度が正常の肥満、糖尿病、慢性腎臓病患者では、アルドステロン作用発現に関わるミネラルコルチコイド受容体 (MR) の病的な活性化が高血圧や臓器障害に関わるという新規病態「MR関連高血圧」を世界で初めて提唱し、基礎および臨床研究を展開している。</p>  <p><b>3. 糖尿病性腎症重症化予防につなげる早期発見マーカーの確立と治療戦略の確立</b></p> <p>健康寿命の延伸を目指し、大分大学—大分県医師会—大分県の3者連携締結による糖尿病性腎症重症化予防推進事業のために、腎症重症化の早期発見バイオマーカーとしてアルブミン尿や尿沈渣中ポドサイトmRNAを用いて、食事、運動療法とSGLT2阻害薬、MR拮抗薬などエビデンスがある薬剤介入と有用性を検討している。</p>
------	--

研究業績・アピールポイント	<p>1. <b>ヒト副腎におけるアルドステロン合成酵素 (CYP11B2) の単離精製</b> (Ogishima, Shibata et al. J Biol Chem, 1991) を世界に先駆けて成功し、CYP11B2特異抗体により、<b>アルドステロン産生細胞を可視化</b>した (Nishimoto, Shibata, et al. J Clin Endocrinol Metab, 2010)。</p> <p>2. <b>新規病態「MR関連高血圧」の確立</b>：数種類のMR転写共役因子を酵母Two-Hybrid法により同定し (Yokota, Shibata et al. J Biol Chem 2010; Hayashi, Shibata, et al. Int Heart J, 2017; Mitsuishi, Shibata, et al. Mol Cell Endocrinol 2018; Nakamura, Shibata, et al. J Am Heart Assoc, 2018)、MRの翻訳後蛋白修飾による活性化機構の解明から新規病態「MR関連高血圧」を提唱した (Shibata and Itoh. Am J Hypertens 2012)。これにより、糖尿病や慢性腎臓病における腎症重症化とMR活性化の関連が明らかとなった。https://researchmap.jp/read0162153</p> <p>3. <b>CLEIA法による新規アルドステロン測定法の確立</b>に成功し (Ozeki, Shibata, et al. Diagnostics, 2021; Frontiers in Endocrinology, 2022)、従来法より精密なLC-MS/MS相当値が実測可能となり、原発性アルドステロン症の新ガイドラインの改訂に貢献した。</p>
---------------	--

役員

大学院教育学研究科  
教育学部

経済学部

医学部

医学部附属病院

理工学部

福祉健康科学部

その他学内施設等